



# 天文台だより

銀河の森天文台  
2021 夏号  
Vol.92

## 5月26日夜、3年ぶり皆既月食を観測！



皆既月食 2021年5月26日 20:19撮影

2021年5月26日夜、皆既月食を観測しました。北海道では、2018年1月31日以来、約3年ぶりの観測でした。

当日の陸別はほぼ快晴で、森の中にある天文台から月が観測できた時はもう月食が始まっていた（右下の画像）。左の画像は皆既中の食の最大頃、20時19分撮影の月です。

皆既月食は、太陽-地球-月が一直線に並び、地球の影に月全体が隠れる現象です。今回の皆既月食は、今年一番の大きさの満月（スーパームーン）と重なり、話題となりました。次回の皆既月食は、来年2022年11月8日に起きます。

また、今年2021年11月19日には、ほぼ皆既に近い部分月食（最大食分0.974）が起きます。



部分月食 2021年5月26日19:12撮影

### 「ごあいさつ」

4月1日付で館長代理に就任しました津田浩之です。

当館（銀河の森天文台）には、計画からオープン当初まで職員として勤務しておりました。私自身は、小学生の頃から天文を趣味として自分の天文台を持つことが夢でした。1988年に陸別天体観測所を設立、89年には低緯度オーロラ観測、子供たちに星空を楽しんでもらう活動をしていました。これらの活動が、当館建設のきっかけとなっていました。オーロラ、日食、月食、彗星、流星群、超新星爆発など様々な自然現象や宇宙ステーション、人工衛星の観望を楽しむことができます。

北海道を代表する天文台として、星空の魅力を伝えていきたいと思っております。



館長代理  
津田浩之（双子座）

## 夏のイベント情報！！

### ☆夏の三角と天体観望会

夏の三角を中心に夏の星座や天体を観望します。ダイヤモンドやサファイア、トパーズなど美しい星の輝きをお楽しみください。

開催日：7月21日（水）～8月1日（日）

説明会：午後7時30分から（土曜・日曜・祝日のみ）

### ☆木星・土星と夏の天体観望会

見頃を迎える木星・土星と夏の天体を観望します。望遠鏡では、木星のしま模様やガリレオ衛星、土星の輪などじっくり見ることができます。

開催日：8月11日（水）～22日（日）

説明会：午後7時30分から（土曜・日曜のみ）

### ☆ペルセウス座流星群観望会

今年のペルセウス座流星群は8月13日の午前4時に極大時刻を迎えます。流れ星が多いと予想されるこの期間に観望会を開催します。

開催日：8月12日（木）、13日（金）

説明会：午後7時30分から

### ☆木星・土星と秋の天体観望会

見頃を迎えている木星・土星と秋の天体を観望します。ぜひ、ご来館ください。

開催日：9月15日（水）～26日（日）

説明会：午後7時30分から（土曜・日曜・祝日のみ）

### 7月イベント中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、7月10日（土）に開催を予定していた「第12回陸別スターライトフェスティバル」を中止させていただきます。安心安全を最優先に考えての決定に何卒ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

## 暦表 (陸別町)

	日の出	日の入	月齢	月の出	月の入
7月 1日	3:44	19:14	20.7	23:22	10:41
7月 15日	3:54	19:08	5.1	8:59	22:15
8月 1日	4:10	18:52	22.1	22:52	12:39
8月 15日	4:26	18:32	6.5	11:41	22:02
9月 1日	4:45	18:04	23.5	23:10	14:32
9月 15日	5:01	17:39	8.1	14:22	23:07

# 天文行事&暦

7月

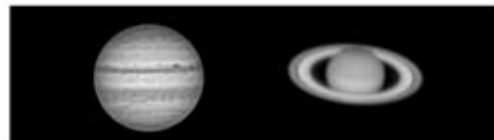
- 5 水星が西方最大離角  
(光度:0.4等, 離角:21° .6)
- 7 小暑(24節気:太陽黄経105°)
- 10 ●新月
- 21-8/1 夏の大三角と天体観望会
- 22 大暑(24節気:太陽黄経120°)
- 24 ○満月

8月

- 2 土星が衝(0.2等, 視直径18" .6)
- 7 立秋(24節気:太陽黄経135°)
- 8 ●新月
- 11-22 木星・土星と夏の天体観望会
- 12, 13 ペルセウス座流星群観望会
- 13 ペルセウス座流星群が極大  
(AM4時 最大70個/時)
- 14 旧七夕
- 16 天文台特別開館
- 20 木星が衝(-2.9等, 視直径49" .1)
- 22 ○満月
- 23 処暑(24節気:太陽黄経150°)

9月

- 7 ●新月  
白露(24節気:太陽黄経165°)
- 14 水星が東方最大離角  
(光度:0.2等, 離角:26° .8)
- 15 海王星が衝(7.8等, 視直径2" .4)
- 15-26 木星・土星と秋の天体観望会
- 21 中秋の名月  
○満月
- 23 秋分(24節気:太陽黄経180°)



## 天体そもそも話「銀河」

今回は「天の川」についてお話しします。夏の大三角を横切るように夜空を流れる天の川、その正体は太陽系の属する「天の川銀河」という銀河の一部です。天の川銀河は円盤状をしており、星の密集した中心部分はどら焼きのようにやや膨らんでいます。円盤の内側にある地球から円盤部分を見ると、「天」に帯状の「川」として見えるのです。

元々「銀河」という言葉は「天にある銀色の河」、つまり「天の川」を指す言葉でした。やがて天の川は星が円盤状に集まった集団であることが判明しました。そしてそれまで星雲と考えられてきた天体の中に天の川銀河と同様の天体が含まれていることがわかったため、「銀河」という言葉は現在では宇宙に無数に存在する恒星の大集団を表す言葉になったのです。

「天の川」といえば「夏の天の川」を思い浮かべる人が多いと思います。これは太陽系が円盤の中心から離れた場所に位置するため、星が密集して明るい中心方向を見る夏の天の川が他の季節の天の川よりも見やすいからです。(三)

## ペッコカめぐり「流れ星」

夜空を流れる流れ星(流星)、まさに星が流れ落ちるように見えますが、その正体は太陽系を漂う直径数mm程度の小さな塵が地球に突入して発光したものです。

では直径数mm程度の塵がどのようにして流星として光るのでしょうか?この説明は少々難しいので詳しいことは省略しますが、単に流星の元となる塵が燃えて光るのではなく、塵が地球に猛スピードで突入してくる、その運動エネルギーが光の源になると覚えておくと良いでしょう。

さて、夏の天文イベントといえば、なんといっても毎年8月13日頃に極大を迎えるペルセウス座流星群です。今年のペルセウス座流星群の極大は8月13日午前4時ころで、12日から13日にかけての夜が一番の見ごろとなるでしょう。午後9時前には月が沈み、8年ぶりの好条件で観察することができます。

残るは当日の天気ですが...これだけは祈るしかありませんね。(中)

## 天文台からのお知らせ

☆ 8月16日は月曜日ですが、特別開館いたします。

## プラネタリウム上映中止のお知らせ

コロナ感染拡大防止のため、コロナ終息までプラネタリウム上映を中止させていただきます。安心安全を最優先に考えての決定に何卒ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

発行・編集：りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)  
〒089-4301 北海道足寄郡陸別町宇遠別 TEL: 0156-27-8100  
URL: <https://www.rikubetsu.jp/tenmon/index.html>  
E-mail: [ginga@rikubetsu.jp](mailto:ginga@rikubetsu.jp) Twitter: @ginganomori\_obs

